

国際協力事業団  
天然資源・環境省 林業局

マラウイ国  
シレ川中流域森林復旧計画調査

ファイナルレポート

平成13年1月

株式会社 三祐コンサルタンツ  
日本工営株式会社

国際協力事業団  
天然資源・環境省 林業局

マラウイ国  
シレ川中流域森林復旧計画調査

ファイナルレポート

平成13年1月

株式会社 三祐コンサルタンツ  
日本工営株式会社

## 序 文

日本国政府は、マラウイ国政府の要請に基づき、同国のシレ川中流域森林復旧計画策定に係る開発調査を行うことを決定し、国際協力事業団がこの調査を実施いたしました。

当事業団は、平成11年8月から平成12年12月までの間、3回にわたり、株式会社三祐コンサルタンツ 柴田俊英氏を団長とする調査団を現地に派遣しました。

調査団は、マラウイ国政府関係者と協議を行うとともに、調査対象地域における現地調査を実施し、帰国後の国内作業を経て、ここに本報告書完成の運びとなりました。

この報告書が、本計画の推進に寄与するとともに、両国の友好・親善の一層の発展に役立つことを願うものです。

終わりに、調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成13年1月

国際協力事業団  
総裁 斎藤 邦彦

## 伝 達 状

国際協力事業団  
総裁 齊藤 邦彦 殿

今般、マラウイ国におけるシレ川中流域森林保全計画調査を終了し、ここに最終報告書を提出できることを喜びといたすものであります。

本報告書には、日本国政府関係省庁並びに貴事業団の上記計画策定に関する助言や提言、さらにはマラウイ国で開催された同国政府の当該調査関連省庁が構成員となる調整委員会の会議でのコメントを反映し、調査地域において関連省庁地方機関の職員と住民参加に基づく環境保全・農村開発計画を取りまとめて作成したものであります。

本件調査に当たってはカウンターパートへの技術移転が調査の一環として各専門分野にわたり実施されましたが、調査・検討の中間結果を参考として、マラウイ国天然資源・環境省及び農業灌漑省から国際協力事業団マラウイ事務所を経由して当該保全事業に係る要請書が提出されたことは、本件がマラウイ国の現に直面する重要な問題であると認識していることを示すものであると理解されます。

この調査を通じ、人口圧増大の結果破壊された自然と住環境を回復するために必要な技術、住民の組織化、生計向上対策、普及サービスの改善等において多くの達成困難な課題が残されていることを改めて確認致しました。他方、マラウイ国当該地域における限られた人的資源並びに財政資金の有効活用の観点から、選定されたモデル地域を拠点・集中的に開発し、そこで得られる知見・経験を周辺地域に敷衍・展開する新しい開発手法を提案いたしました。マラウイ国にとっては新しい開発手法を実行に移すためには、受益住民の事業の計画・実施への参加はもとより、関係行政指導機関における人的能力開発が不可欠であります。今後、マラウイ国内外の利用可能な各種資源を適切に活用することにより、調査対象地域における持続的流域保全、造林、アグロフォレストリーを含む環境保全・農村開発の達成を通じて地域の発展に大きく寄与し得るものと確信するものであります。

最後に、本調査の実施に際し、積極的なご支援とご協力を賜った貴事業団、外務省、農林水産省、マラウイ国天然資源・環境省を含めた関係機関をはじめとして、随時適切なご指導・助言を頂いた作業監理委員会の関係各位に対して深甚の謝意を表します。

平成 13 年 1 月

柴田 俊英

---

調査団長  
柴田 俊英